

4・5 情報システム導入方法

情報システム開発には、全てゼロから開発するスクラッチ開発法と、出来合いのシステムを活用するパッケージ活用型があります。過去はスクラッチ形が多かったのですが、最近はパッケージ型システムが多くなってきています。

パッケージ型は、ある前提の業務標準に自社の業務を合わせるようになるため、組織内に抵抗が多いのも事実です。しかし業務そのものが優位性に貢献するビジネスモデルを基本にしている企業以外は、通常の基幹業務では違いを出すことのメリットはあまりありません。むしろ変える事によるシステム開発費用等が過大になることの方が問題です。このような考えは、ERPの導入時に大きな議論になり、現在ではほとんどがパッケージ活用に移行しています。

ただ完全にパッケージに合わせればよいといっても、パッケージ自体が多様な業務方式対応を可能にしており、どの業務方式、パラメーターにセットするかは、ユーザー側で決める必要があります。パッケージ対応できる業務方式を理解した上で、BPRを行い、情報システムを導入すると良いでしょう。

